

・・・年頭に際して・・・

皆様お目どう御座います。本年も久木小学校区住民協をよろしくお願いいたします。昨年の年頭の挨拶では新型コロナウイルスがデルタ株からオミクロン株に変異し、感染力が非常に強くなり感染が拡大したと申し上げました。

本年初頭もまた同じ様なことを述べる状況で、コロナウイルス感染は深く静かに拡大しているようです。オミクロン株がますます進化し、その系統のウイルス BA.5 が人々の予防手段を嘲笑うかのように第8波をもたらしているようです。

ただ日本経済の今後の発展が大いに気になる政府としては、早期に経済発展の障害と思われる規制を解除し、発展に向けての舵取りを強化したいのが本心で、現状はコロナウイルス感染前の状況に規制をほぼ緩和してしまったと思われて仕方ありません。

ここに私達庶民の感染拡大に関する心配事と政府の関心事に余りにも違いが在り過ぎている様に思えて大いに心配です。

ただ昨年来の感染拡大から何も学習しなかったわけではありませんが、3年余りのコロナ禍で私共も幾分疲れが出て、気が緩んで来ているのも事実です。

オミクロン株に的確に効くワクチンが開発されているようですが、冬に向かい換気が悪くなりその効果が十分に発揮されず、インフルエンザの感染拡大と合わせて、心配が絶えません。私達の予防策としてはインフルエンザワクチンの接種と5回目のコロナウイルスワクチンの接種、3密の回避、この基本を守る事以外にありません。

今年は心配事はコロナウイルス感染拡大ばかりではありません。昨年2月24日の突然のロシアによるウクライナ侵攻です。何時まで続くのでしょうか、全然終息の気配がありません。

暗い話ばかりで申し訳ありません。

本年はこれらの心配事が全て解消し明るい年になりますよう願っています。

校区住民協 代表 山崎徳次郎

令和4年12月度役員会

開催日時と場所：2022年12月3日（土）

13時30分～15時40分、久木会館

多目的B室、参加者：16名（内役員10名）

議題

(1) 事務局からの報告事項

- ① 住民協連絡会（11/25（金）開催）報告
・「空き家問題」：空き家問題につき、市の担当者からの説明・議論が実施された旨報告された。住民からの依頼に基づいて市が調査を実施しているが、市の担当者は1名のみ、また利権者との協議内容は個人情

報となる為、開示は難しいとのことで、住民として有効利用などを提示しにくい状況であることが報告された。空き家問題についてはハイランドの海野氏が積極的な活動をしていることから、市とハイランド自治会で情報交換する場を設け、空き家問題に対する住民と

行政とのタイアップの良い案がないか探りたい旨、事務局より提案があった。尚、ゴミ屋敷など公共の利益に反するものについても、市の審議事項

① 「住民協ひろば特別号第6号」について

・配布資料③に基づいて、作成費用に関する会計報告があり、ほぼ昨年と同じであった事が報告された。・この特集号を基に、ワークショップ+ミニ講演会を開くことが社協で企画(多世代交流が進んでいる久木小学校区に出前講演の形)されていることが報告され、3月18日か25日を開催候補日として調整することとなった。

② 拡大版久木朝市(11/13 実施)について

・今回で拡大版朝市は2回目となり、告知方法を工夫したこともあり、子供たち・先生たちの参加もあり盛況だった、またレイアウトも事前に準備されていて、スムーズに催行出来たとの報告があった。

意見：○マイクが聞こえにくく、出店者紹介などしても、効果が得られなかった。

○朝市の開始、終了が不明瞭で、ケジメがつかなかった。

○OPTA とのコミュニケーションを事前にもっとすべきだった。

○学校サイドとしては、部費を稼ぐために出店したい、ステージを中央に設けて先生・子供たちのパフォーマンスを見せたいとの要望もあるので、次年度に向け住民協と協議したい。

○これ以上会議・報告・連絡会など手間が増えると続かない、必ず開催するのではなく、やれる人がやればよいぐらいのフレキシブルな対応が望ましい。

○拡大版のコンセプトがはっきりしない。

○基本的な枠組みは押さえて、あとはゆるく・楽しく・効果的にやる方向を指向すべき。

○当日社協は「みんなであそぼう/多世代交流事業」を開催したが、朝市での多世代交流には無理があった、今後は福祉的なつながりを重視して、楽しい朝市を遂行することに主眼を移す。

また、拡大版久木朝市の会計報告があった。

「まちづくり景観課」で対応するとのことであった。

③ 久木住民自治協議会の目指すもの

事務局より、配布資料を一読し、久木住民自治協議会がなにを目指すのか、再確認するよう要請された。

④ 避難所訓練について

山の根で実施された、安否確認については、10日の班長会で、各班長に実施結果・効果を確認する、またその際、住民間での安否確認の必要性・意義についても話し合う予定であることが報告された。

意見：○市の防災訓練と避難所訓練を同時に開催したが、内容が散漫となり、地域住民に対して有効性を欠いたのではないかと思う。

○避難所だけの訓練をしているが、在宅避難者への対応、支援物資の受け渡しなども考慮すべきで、市とも早々に、協議してゆく必要がある。

⑤ 久木小学校改修工事に向けた座談会の件

PTA 会長の飯国氏より下記の報告があった。

2024 年から開始される久小の改修工事に向けて、関係者・地域の声も反映すべく、11月12日に座談会を開催した。その結果をPTAでまとめて12月1日に市の教育委員会に要請書として提出した。(開かれた学校にしてほしいとの要望が多かった)

12月21日に住民説明会が開かれるので、PTAも出席し、対面で議論したい。また1-2月のパブリックコメントにも対応していく。

⑥ その他

a) 1月の役員会は休会とする。次回は2月4日

b) 久木会館

・11/27午後7時~9時まで、サッカーWカップのパブリックビューイングが開催され、60名程参加、大いに盛り上がったことが報告された。

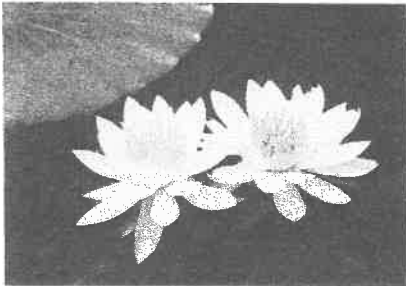
・久木会館横の大木の枝が聖和学園の土地まで伸び、落ち葉がグラウンドに落ちるとのクレームがあったが、市が来週から伐採するとの連絡があった旨報告された。

《寄稿》

私と写真

校区住民協 理事 新倉 洋一

私が本格的に写真撮影にかかわったのは、今から約3年前の時に、友人に誘われ、地元の写真クラブに入会しました。それから早3年たち、今写真撮影の難しさ、奥の深さの壁にぶつかり苦労しています。写真撮影は被写体を自分で決めそしてここから自分の持っている感性、経験、構図の決め方、チャンス等が一致した時に素晴らしい写真が撮れます。このチャンスはなかなかあるも

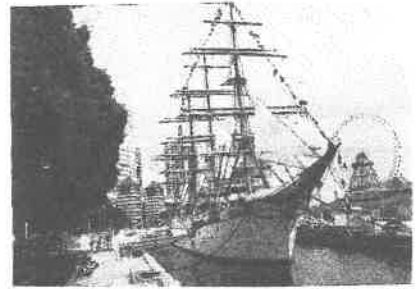


のではありません。日々努力と他人の写真の鑑賞等、その結果皆様からこの写真はいいねと言われ

た時の嬉しさは写真を撮っていて一番の幸せを感じる時です。写真は素晴らしいです。

【右上の写真】

横浜MM21内の旧ドック内に係留されている帆船日本丸です。



【右下の写真】

逗子海岸より江の島方向に夕日が沈むときに夕日の中に一瞬船が通過した時の様子。【左の写真】



大船フラワーセンターの池の中に咲いていた純白のスイレンの花が非常に美しかった。

《連載》 久木朝市ひろば

《朝市 常連のわたし》

みんなの食堂がコロナ禍の流行で行う事が出来なくなりました。軌道に乗っている時なのにとっても残念!!と!? 思いきやそんなコロナに負けていない久小校区のスタッフ達は凄い! 本当にすごい!!

次に出現したのが朝市だ。～初回は余り期待せずに久木会館前(コロナの為屋外)に行くと、これが又地元の方達の手作り野菜、ケーキ、作品等が所せましと並んでいる。10時開始なので少し早めに行くとなんとなく一杯、ここは買うだけではなく話しをしに来る場でもあるようだ。話す声笑う声で会館前は凄い賑わいとなっている。2回3回と進むうちに販売種類がどんどん増え、それと共に来る人も増え楽しいひと時の場の朝市となっている。またまた次には社協も参加、

芹澤 ふさ江(山の根在住)

会館中も使い講座・ゲーム迄加わり、大人ばかりではなく子供達の話し声笑声でいっぱいになった。拡大版朝市はPTAも参加して場所を久小校庭に移し実

行、どんどん進化。2回目は11月13日、黄葉した銀杏の下で(写真)、久小の先生方の器楽演奏も加わる。



3回目は何が飛び出しどんな物を買えるのか、常連のわたしは期待大です。

《レポート》 カーボンニュートラル(続)

14. バイオマスと廃棄物(1)

バイオマスとは、一定量集積してエネルギーや原

料として活用できる生物由来の資源をいいます。構成する元素は炭素を主としているので、燃やせ

ば炭酸ガスを発生するが、元は光合成によって作られたものだから、グリーンエネルギー（一次エネルギー）とみなされます。

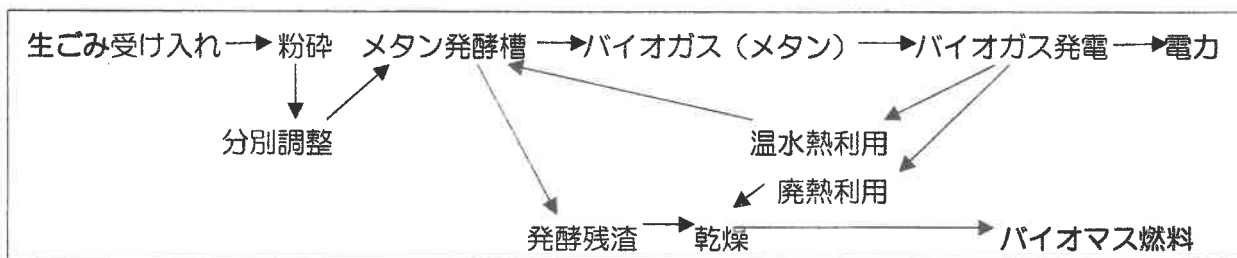
化石燃料が使われなくなった際の、唯一の新しい炭素の供給源ともなるので、食糧、エネルギーとして物の原料として、取り合いが予想されます。バイオマスは大別して廃棄物系（家畜、食品、建築資材、パルプ、下水、家庭等）、未利用資源（間伐材、稲わら等）、資源作物（菜種、トウモロコシ等）に分類されます。その中でも特に従来マイナスイメージで捉えられがちだった廃棄物系を、重

要なりサイクル資源として活用するのが重要です。廃棄物系は未利用資源と共に出所が多岐、少量になりがち、そして地域に遍在することが多いので、その特性を生かした地産地消の資源やエネルギーとしての活用が考えられています。

エネルギーとしての活用は間伐材を使用した発電、生ごみ系廃棄物を使用した発電、もみ殻等の農産物の未利用資源を使用した発電等がすでに実用化されるか計画がされています。その先駆的な例として長岡市で実施されている生ごみ発電を例示します。

① 生ごみ発電：長岡市の例

（平成 25 年 7 月より本格稼働） ◇工程概略



◇生ごみ処理能力：65 トン/日 ◇発電能力：560kWh

◇事業の効果（令和 2 年度）：◆実施前に比較して燃やすごみの量が約 20%減少

◆499 トンの炭酸ガス削減（一般家庭の 110 世帯分） ◆228 万 kWh を発電（約 560 世帯分）

◆電力会社に 202 万 kWh を売電（490 世帯分） ◆EV・PHV用急速充電器で 3671 台利用（39562KWH） ◆発酵残渣を燃料として 393 トン売却

廃食用油から作られた航空燃料（SAF = Sustainable Aviation Fuel）の実用化も始まっており、国内生産の検討が行われています。その際の課題の一つは原料となる廃食用油の安定した確保といわれています。2050 年のカーボンニュートラルの実現には、廃棄物のリサイクル資源化は必須の要件であり、一部の廃棄物についてはすでに世界的な争奪戦が始まっています。

家庭系の廃棄物は、少量・多種類に渉る廃棄物を種類ごとに資源化できる量にまとめるのが第一歩、そのためには廃棄物全般を見通しての合理的な分別・回収の方法の確立と、消費者の協力が欠かせません。（次回は、14. バイオマスと廃棄物（2）②バイオプラスチック、③プラスチック廃棄物を予定）

鈴木 為之（山の根在住）

編集後記

調べて見ると 2023 年の干支（えと）は壬兔（みずのと・う）であるとの事。干支は古来、未来を探るための手段として使われてきており、干支は中国の古い思想で、「陰陽五行思想」を礎にした 60 年周期で循環する暦でそれぞれに意味を持っている。

それによると「癸兔」は「寒気が緩み、萌芽を促す年」になる様だ。コロナ禍以降、停滞し続けていた世の中にそろそろ希望が芽吹く春がやってきそうだと。但し今まで培ってきた自身の力が試される年であることも示唆しているため、最後まで諦めずに希望を持ち続けながら、でも無理をしすぎないことが道を開く鍵となりそうだと識者は綴っている。

事務局長 石井 達郎